

2024年6月19日

本社所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目 23 番 5 号
J P R 千 駄 ヶ 谷 ビ ル
上場会社名 株式会社サニーサイドアップグループ
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 次 原 悦 子
(コード番号: 2180)
問 合 せ 先 執 行 役 員 経 営 管 理 部 長 大 竹 貴 也
電 話 番 号 03-6894-3232

ウェルスアドバイザー・エクイティ・リサーチレポート発行に関するお知らせ

ウェルスアドバイザー株式会社より、当社に関するエクイティ・リサーチレポートが発行されましたので、お知らせいたします。なお、同レポートは下記 URL よりご覧いただけます。

記

1. レポート概要

ウェルスアドバイザー・エクイティ・リサーチレポート（2024年6月19日）

https://www.wealthadvisor.co.jp/stock/er_report/pdf/er2180_240619.pdf

2. 会社概要

会 社 名 : 株式会社サニーサイドアップグループ
代 表 者 : 代表取締役社長 次原 悦子
所 在 地 : 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目 23 番 5 号 JPR 千駄ヶ谷ビル
設 立 : 1985年7月
資 本 金 : 550 百万円
U R L : <https://ssug.co.jp/>

以上

(本件に関するお問合せ先)

株式会社サニーサイドアップグループ 経営管理部 経営管理グループ TEL 03-6894-2241

企業のPR支援やブランディングなど展開

投資判断 (6/18)

サニーサイドアップグループ

(2180・東証スタンダード)

Overweight 継続

株価	投資単位	時価総額	年初来高値	年初来安値	PER(予)
646円 (6/18)	100株	98.2億円 (6/18)	780円 (24/2/27)	558円 (24/1/17)	10.4倍 (6/18)

ブランドコミュニケーション事業で統合効果が拡大、収益性向上に期待

■第3四半期累計営業利益は過去最高

24年6月期第3四半期累計(23年7月～24年3月)の連結業績は、売上高13,663百万円(前年同期比2.5%減)、営業利益1,505百万円(同34.3%増)となった。利益面については第3四半期累計として過去最高を更新した。コロナ禍を過ぎて企業のマーケティング活動が本格的に活気づき、食品・飲料、コスメ・ファッション、商業施設・ホテルなどに関わるPR(Public Relations)を順調に受注している。インバウンド需要の拡大も追い風。さらに、「地方創生ユニット」が本格稼働し、食や観光資源の魅力を伝えるPRやコンサルティングも受注した。販促施策・商品企画の受注変動の影響により、ブランドコミュニケーション事業は第2四半期(23年10～12月)まで減収で推移したが、第3四半期(24年1～3月)に大幅に伸長し、第3四半期累計ではわずかに減収となった。一方、利益面は、ブランドコミュニケーション事業で統合効果が拡大し、大幅に増加した。

■一気通貫のサービス提供を目指す

24年6月期から主力のマーケティング&コミュニケーション事業、セールスアクティベーション事業をブランドコミュニケーション事業として統合し、さらなる強化を図る。その手始めに、グループの中核を担うサニーサイドアップを存続会社として、ワイズインテグレーション、スクランブルを吸収合併した。併せて経営体制の強化を目的に、マーケティングのプロフェッショナルであるリュウシーチャウ氏を外部から招聘し、顧客とのリレーション強化やサービスの高付加価値化を進めた。足元では大型商業施設のPR実績が次のオファーにつながるなど、好循環のスパイラルが生まれており、グローバル企業からの依頼も継続的に増加している。

この一年で様々な改革を進めた結果、事業上だけでなく、企業としての課題も整理され、筋肉質な経営体質へ転換しつつある。24年6月期の通期業績は連結売上高21,000百万円(前期比10.8%増)、営業利益1,560百万円(同20.3%増)を見込むが、第3四半期累計の連結営業利益は1,505百万円(前年同期比34.3%増)で、通期予想に対する進捗率は

業績動向 (6/18時点)

		売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)
22年6月期	実績	16,190	5.4	767	47.8	1,284	92.8	581	95.0	38.6
23年6月期	実績	18,956	17.1	1,296	69.0	1,335	4.0	884	52.2	59.3
24年6月期	会社予想	21,000	10.8	1,560	20.3	1,540	15.4	930	5.2	62.4
	WA予想	21,000	10.8	1,800	38.9	1,850	38.6	1,200	35.7	79.0
25年6月期	WA予想	25,000	19.0	2,200	22.2	2,200	18.9	1,400	16.7	92.2



96.5%と高い。第4四半期(4～6月)には他の四半期より多くの販管費計上を想定しているが、第3四半期に受注が大きく伸びていることを考えると、利益面は計画を上回って着地する可能性もありそうだ。

同社はこれまで約40年にわたって幅広い分野で積み重ねてきた実績から、本業のPRの概念を広げていくことがビジネスチャンスにつながると見ている。PR市場だけでなく、コンサルティング市場、そして7兆円以上もの市場規模のある広告市場を包含した、より大きな市場で事業機会の獲得を狙い、既存のPR業務にとどまらず、マーケティング戦略、コブランディング企画など、コミュニケーションに関わる領域を網羅し、ワンストップでサービスの提供を目指す構えだ。そのために、教育を拡充するとともに、これからのビジネスに必要な知識や経験を持つ人材の採用も積極的に行う。

今後については、ブランドコミュニケーション事業において、統合効果が持続・拡大するだけでなく、多様なサービスで新たな事業機会を獲得するなど、より一層の成長が予想され、当面は24年6月期並みかそれ以上の成長率で成長が続く公算は大きい。会社側は26年6月期の連結営業利益目標を20億円としているが、それを超える可能性も十分にある。

サニーサイドアップグループ (2180・東証スタンダード)

株価は2月27日に年初来高値780円を付けたが、その後は一服した。予想PER（株価収益率）は10倍台で、競合2社と比較して割安感が顕著。想定株価レンジはウエルスアドバイザーの5年業績予想をベースにDCF（ディスカウント・キャッシュ・フロー）法及び24年6月期予想EPS（1株利益）にPER20倍程度で算出した1,000～1,300円とする。株価に上値余地が大きいことから、投資判断は「Overweight」継続とする。
(梅村 哲哉)

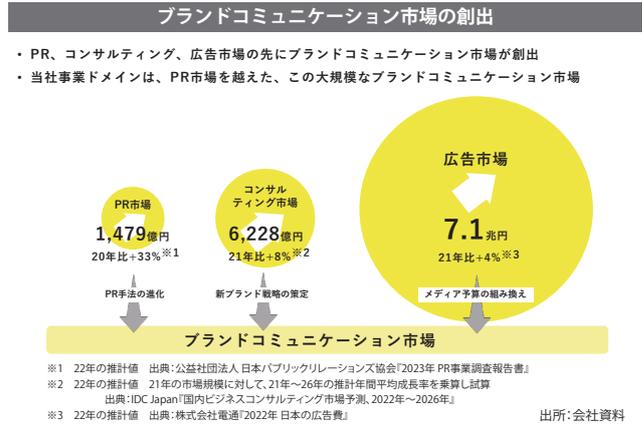
■会社概要

1985年7月創業。企業のPR活動支援やブランディング、セールスプロモーション、スポーツマーケティングが主力。そのほか、オールデイダイニング「bills」のブランディング、ライセンスに携わるフードブランディング事業、新規事業開発を担うビジネスディベロップメント事業を展開する。20年1月に持株会社体制へ移行。事業間、グループ会社間の連携によりシナジーを創出し、成長力はより高まっている。

24年6月期中核子会社のサニーサイドアップがワイズインテグレーション、スクランブルとの吸収合併を完了、マーケティング&コミュニケーション事業、セールスアクティベーション事業をブランドコミュニケーション事業として統合し、同事業を中心に売上成長と収益性向上を目指す。

■事業環境と展望

同社の多岐にわたる事業の中で、PR事業については公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会のPR業実態調査によると、PR業全体の売上高（22年度実績）は推計約1,479億円だった。前回調査（20年度）の約1,111億円を大きく上回った。コロナ禍によるダメージから回復し、PR市場が拡大傾向にあるとみられる。なお、コロナ禍以前の前々回調査（18年度）では約1,290億円で、これも上回っている。一方、近年ではPR活動と広告活動の垣根がなくなってきており、同社には広告に分類されるような受注も増えている。電通によると、23年の総広告費は7兆3,167億円（前年比3.0%増）と過去最高を更新した。今後、PR、広告に限らない、幅広い受注獲得が期待される。



リスク要因

企業のマーケティング費用は景気動向によって増減する傾向があり、同社のブランドコミュニケーション事業もその影響を受ける。また、同社はテレビ、新聞、雑誌など、メディアリレーションにおいて強みを発揮するが、インターネットなど新しいメディア、スマートフォンなど新しいデバイスの普及もあり、既存メディアにこだわらず、新しいメディアとの関係構築が重要になる。さらに、技術の進歩などからマーケティング手法は絶えず変化しており、新しい状況への迅速な対応も重要。一方、新規事業開発に注力し、業務提携、合併事業、戦略的投資、M&Aなども積極的に行っている。事前の分析や計画にも関わらず、予測とは異なる状況が発生することもあるが、こうした試みが将来の事業拡大、高収益化につながることは留意したい。

株主還元 (6/18時点)

■配当の状況

	1Q末	2Q末	3Q末	期末	年間
22年6月期 実績	—	0円	—	12円	12円
23年6月期 実績	—	0円	—	15円	15円
24年6月期 会社予想	—	5円	—	15円	20円

■株主優待

なし

本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料に掲載された意見は作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。本資料に掲載された意見・データは、当社が信頼できると判断したデータ等により作成いたしました。その正確性、安全性等について保障するものではありません。著作権、知的財産権等一切の権利はウエルスアドバイザー株式会社に帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

競合他社比較 (赤太字は競合他社に比べ優位な数値) (6/18時点)

	サニーサイドアップ グループ (2180・東証スタンダード)	シグママックス・ ホールディングス (6088・東証プライム)	メンバーズ (2130・東証プライム)	
基本事項	株価	646円	1,545円	889円
	投資単位	100株	100株	100株
	最低投資金額	64,600円	154,500円	88,900円
	決算月	6月	3月	3月
株価指標	PER(予)	10.4倍	16.7倍	77.2倍
	PBR(実)	2.7倍	4.9倍	1.9倍
	配当利回り(予)	3.1%	2.2%	3.6%
成長性	売上高成長率(予)	10.8%	11.6%	13.5%
	営業利益成長率(予)	20.3%	24.1%	334.8%
	EPS成長率(予)	5.2%	20.4%	18.5%
収益性	売上高営業利益率(予)	7.4%	20.2%	0.9%
	自己資本当期純利益率(実)	28.3%	26.9%	2.1%
	総資産経常利益率(実)	16.5%	26.5%	1.2%
	自己資本比率(実)	41.4%	72.1%	51.5%
財務安定性	デット・エクイティ・レシオ(実)	34.2%	0.2%	12.1%
	流動比率(実)	161.5%	369.6%	156.6%

ビジネスコンサルティングのシグママックス・ホールディングス（6088）、デジタルビジネス支援のメンバーズ（2130）を比較対象として挙げた。

■成長性

20年6月期は新型コロナの影響で下期にフードブランディング事業を中心に影響を受け、利益が大きく落ち込んだ。しかし、21年6月期は急速に回復し、その後も成長が継続している。22年6月期、23年6月期は連続して過去最高の売上高、利益を更新した。24年6月期の業績予想は連結売上高21,000百万円（前期比10.8%増）、営業利益1,560百万円（同20.3%増）だが、特に利益面は計画を上回って着地する可能性もあろう。今後も既存事業を中心に継続的な成長が見込めるほか、新たな事業機会の獲得で数年後には成長力が飛躍的に伸びる観測もある。

■収益性

22年6月期は助成金収入などを営業外収益に計上し、経常利益を押し上げる特殊要因となった。23年6月期はフードブランディング事業、ビジネスディベロップメント事業の損失が解消されることで、22年6月期と比較して収益力が向上した。一方、24年6月期以降は主力のブランドコミュニケーション事業で収益性がより向上する見通しだ。同事業の成長に向けて、人的資本に積極的な投資を実施する方針。

■財務安定性

2008年9月の上場以降、自己資本を着実に積み上げている。23年6月期の自己資本比率は41.4%で、前期の35.7%から上昇した。デット・エクイティ・レシオは34.2%、流動比率は161.5%。有利子負債は減少しており、特段の問題はない。24年6月期の配当は第2四半期末5円、期末15円（前期は期末一括15円）と増配し、配当性向は32.1%になる見込み。

ウエルスアドバイザー株式会社
株式分析部 アナリスト 梅村 哲哉
03-6229-0078 tumemura@wealthadvisor.co.jp

ウエルスアドバイザー・エクイティ・リサーチレポートの読み方

特徴

(1) 第三者機関として中立的な立場を重視

ウエルスアドバイザー・エクイティ・リサーチレポートは、ウエルスアドバイザーが位置する中立的な第三者としての立場を重要視し、客観的な比較・評価情報の提供に努めています。ウエルスアドバイザーがカバーする全銘柄に対し、アナリスト個人の見解に加え、複数のアナリストから成る銘柄評価委員会の意見を反映し、投資判断・想定株価レンジ・業績予想を決定しています。

(2) カバー銘柄のユニバース

カバー銘柄は下記対象銘柄から銘柄評価委員会が選出しています。

【銘柄選定基準】

- アナリストのカバー率が低い国内新興市場上場銘柄
- 個人投資家からの人気が高い銘柄（各オンライン証券のデータを参考）
- 時価総額を考慮（50億円程度以上を目安）
- 整理、監理銘柄や継続疑義、債務超過銘柄を除く

(3) 3段階の投資判断

カバー銘柄に対する投資判断は、ウエルスアドバイザーの各アナリストによる調査・取材・分析を基に銘柄評価委員会の協議を経て決定しています。下記の基準を基に3段階（最上位から「Overweight」（オーバーウエート）、「Neutral」（ニュートラル）、「Underweight」（アンダーウエート））で予測しています。

Overweight（オーバーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を15%以上上回ると予測される場合

Neutral（ニュートラル）

今後、半年間の株価推移が現値水準の-15%～+15%にとどまると予測される場合

Underweight（アンダーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を15%以上下回ると予測される場合

ウエルスアドバイザーでは業績見通しや財務状況、株価の値動きなどに関する見解の変更により、機動的に投資判断を変更します。ただし、影響力のある、新しい情報が明らかとなり、判断に時間を要する場合には投資判断を「Under Review」（保留）とする場合があります。また、取引時間中の投資判断の変更は行いません。アナリストが退職した場合などは投資判断をいったん「Suspension」（停止）とする可能性があります。

(4) 中期的な想定株価レンジ

向こう半年間で想定される株価のレンジを示します。株価指標などを用いた適正株価水準のほか、チャートのフシ目や直近の高値・安値、トレンドライン、移動平均線などテクニカル面や価格帯別出来高なども考慮して、中期的な上値メド、下値メドを決定しています。

項目説明

■ アナリストコメント

直近の業績動向や事業環境について、取材に基づいた評価をコメントしています。投資判断の根拠や業績予想に対する見方、今後の事業展望などを記載し、株式投資をするうえで最も重要な情報を掲載しています。また、読みやすさを考慮してテーマごとに2～4つのパラグラフにまとめているほか、重要なポイントを太字で強調しております。

■ 業績動向

通期決算の実績2期分と会社予想、およびウエルスアドバイザーの独自予想を今期、来期の2期分掲載しております。各銘柄への取材に加え、四半期毎での過去の業績傾向やセグメント毎での分析に基づいて業績数値を予測しています。

■ 会社概要

各銘柄がどのようなビジネスを展開しているのか、どこに収益源があるのかなどを詳しく解説するほか、今後どの事業に力を入れていくのか、中期的にはどのような事業展開を図っていくのかなどの中期的な見通しも取材を踏まえて掲載します。

■ 事業環境と展望

各銘柄が属する業界について、足元の状況や将来の成長性などの観点から解説します。競合他社への取材も実施することで業界全体を多方面から捉えるほか、業界団体のデータなど具体的な数値も掲載します。

■ リスク要因

各銘柄が有するリスクを解説します。事業面でのリスクに加え、業績面や財務面、株式市場独自のリスクなども考慮して様々な角度から見たリスクを示します。

■ 成長性

今期会社計画の売上高成長率、営業利益成長率、EPS成長率を競合他社と比較するほか、過去の経緯や主力事業の成長力などを評価します。

■ 収益性

今期会社計画の売上高営業利益率と前期実績の自己資本当期純利益率、総資産経常利益率を競合他社と比較するほか、過去からの収益性の変動などを評価します。

■ 財務安定性

前期実績の自己資本比率、デット・エクイティ・レシオ（＝有利子負債/自己資本×100）、流動比率（＝流動資産/流動負債×100）を競合他社と比較するほか、現預金やキャッシュフローなどの観点から財務安定性を評価します。